

江別・樋口さん発行ミニコミ誌

【江別】市内の主婦樋口みな子さん(73)が隔月で発行するミニコミ誌「銀河通信」が7月で創刊35周年を迎える。樋口さんは1988年の創刊号から、1人で取材、編集をこなし、環境や人権問題など幅広い話題を提供してきた。「1人の力は小さくても萎縮なんかしてられない。1号でも多く自分の言葉で伝えていきたい」と語る。

環境、人権 1人で取材・編集

同誌はA4判カラー18ページ。現在、年間2千円を支払う郵送読者が約1600人、登録制（無料）のウェブ読者が約6000人いる。タイトルの「銀河通信」は、天体観測が趣味の夫(70)が「多々の人に届いてほしい」との願いを込めて付けた。

樋口さんは札幌管内平取町生まれ。夕張南高(当時)では新聞局に所属し、炭鉱事故が発生する原因を取材した。東京の専門学校を経て、大阪の企業で臨床検査技師として勤めた後、旭川の病院へ移った。

75年に「旭川・大雪の自然を守る会」(当時)の活動に参加し、会報の編集を担当した。85年に結婚を機に札幌へ移り、「旭川時代の仲間」に近況を伝えた」と同誌の発行を始めた。

90年には家族と沖縄の戦跡を訪ねた記事などが評価され、全国の機関誌コンク

「力小さくても、自分の言葉伝えたい」

ールで入賞した。その後もポータルのアウシユビッツ強制収容所跡をルボするなど、精力的に取材を続けてきた。

最近では夫の介護もあって以前より遠出の機会は減ったが、2024号となった今月5日発行の最新号では、根室管内羅臼町に野草観察へ出かけた様子などを写真付きで紹介した。

20日には札幌教区カトリックセンターで、創刊35周年を祝う会が開かれ、道内外から読者ら約50人が集まった。出席者から「読むと自分の世界が広がる」「毎回楽しみます」「などお祝いの言葉を贈られた樋口さんは「こんなに長く愛されるなんて、みなさんに感謝です」と節目を喜んだ。

購読の問い合わせは樋口さんのメール(mingisa@gatepalator.jp)へ。(十門 寛治)



「銀河通信」35周年を祝う会で花束を受け取った樋口みな子さん(20日)